

## 8.9 景観

## 8.9.1 調査事項

調査事項は、表 8.9-1 に示すとおりである。

表 8.9-1 調査事項

区 分	調査事項
ミティゲーションの実施状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大 8 万席となる観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを約 50m とし、周辺の景観に調和する計画としている。</li> <li>・最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減する計画としている。</li> <li>・日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観とする計画としている。</li> <li>・屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げる計画としている。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させる計画としている。</li> <li>・軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成する計画としている。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返し」の構成により、日本らしさをより強調する計画としている。</li> <li>・外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とする計画としている。</li> <li>・各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じる事が可能な計画としている。</li> <li>・「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出（「深緑の杜」）、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出（「大樹の里庭」）、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出（「水辺の里庭」）することで周囲の多様な景観との調和を図る計画としている。計画建築物 5 階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、ススキや彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備する計画としている。</li> <li>・木の縦格子には国産のスギの規格材を採用する計画としている。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理（K3仕様）とし、耐久性を高め美観を維持する計画としている。</li> <li>・外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出する計画としている。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出する計画としている。</li> <li>・植栽樹種は、計画地の潜在自然植生や代償植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木の保存、移植利用を積極的に行い、周囲のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。</li> </ul>

### 8.9.2 調査地域

調査地域は、計画地及びその周辺とした。

### 8.9.3 調査手法

調査手法は、表 8.9-2 に示すとおりである。

表 8.9-2 調査手法

	調査時点	施設完成後の2019年12月～2020年1月とした。
調査期間	ミティゲーションの実施状況	施設完成後（2019年12月～2020年1月）の適宜とした。
調査地点	ミティゲーションの実施状況	計画地及びその周辺とした。
調査手法	ミティゲーションの実施状況	現地調査(写真撮影)及び関連資料の整理による方法とした。

#### 8.9.4 調査結果

(1) 調査結果の内容

1) ミティゲーションの実施状況

ミティゲーションの実施状況は、表 8.9-3 に示すとおりである。

なお、景観に関する苦情は工事終了までになかった。

表 8.9-3 ミティゲーションの実施状況

ミティゲーション	実施状況
<ul style="list-style-type: none"> <li>最大8万席となる観客席をコンパクトに配置し、フラットな屋根架構により建物高さを約50mとし、周辺の景観に調和する計画としている。</li> </ul>	<p>最大6万人収容可能な観客席をコンパクトに配置し、建物高さを約47mとした(写真8.9-1)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>最外周柱の最上部を内側に傾斜させて、周辺の圧迫感を軽減する計画としている。</li> </ul>	<p>最外周柱の最上部を内側に傾斜させ、圧迫感の軽減が図られた(写真8.9-2)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>日本の伝統的な建築を想起させる、連続する軒庇の水平ラインと深い陰影によって、周辺の木々と調和した外観とする計画としている。</li> </ul>	<p>連続した軒庇を整備することによって水平ラインと深い陰影を形成した(写真8.9-3)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子で仕上げる計画としている。外壁を「面」ではなく「線」で構成することにより、「和」を想起させる繊細な陰影が周囲の木々に溶け込み、長大な屋根や壁面による圧迫感を軽減させる計画としている。</li> </ul>	<p>屋根の庇や軒庇の見上げ部は全周を連続した縦格子とし、外壁を分節、線で構成することにより、面的な圧迫感の軽減が図られた(写真8.9-1、写真8.9-4)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成する計画としている。水平方向にも高さ方向にも展開した「繰り返しの構成により、日本らしさをより強調する計画としている。</li> </ul>	<p>軒庇の連続した縦格子により、日本建築の要素である垂木を想起させる外観を形成した(写真8.9-4)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観とする計画としている。</li> </ul>	<p>外周の低層部は水平に伸びる軒庇と鉛直柱の構成とし、軸組によって生まれた、陰影のある印象的な日本らしい外観を形成した(写真8.9-5)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>各軒庇上部にはプランターを配置し、日本の野草など四季を感じることが可能な計画としている。</li> </ul>	<p>各軒庇上部には、季節の花などを楽しめるアベリア、レンギョウ、ムラサキシキブ等をプランターに配置した(写真8.9-6)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>「大地の杜」として、周囲の多様なみどりの景観に合わせ、聖徳記念絵画館外周などのまとまった緑に隣接する計画地東・北側は階層構造の樹林構成の緑地とし隣接する緑との連続する緑を創出(「深緑の杜」、広いオープンスペースの南側は大地に大樹となる樹木を植栽し大きな緑が人を迎え入れる空間を創出(「大樹の里庭」、街に隣接する西側は渋谷川の記憶の継承と親しみのある里庭の景観を創出(「水辺の里庭」)することで周囲の多様な景観との調和を図る計画としている。計画建築物5階には、「大地の杜」と行き来できる「空の杜」として、スキヤ彩りある草花、花木を連続させ、計画地の原風景のおおらかさを想起させる空中の庭園を整備する計画としている。</li> </ul>	<p>聖徳記念絵画館外周に接する計画地東・北側の外構部には、階層構造の樹林構成の緑地を創出し、隣接する緑との連続性を確保した(写真8.9-7)。また、南側のオープンスペースには、大樹の里庭を整備した(写真8.9-8)。北側地上部、及び西側のペデストリアンデッキ下部には、せせらぎを整備した(写真8.9-9～写真8.9-10)。計画建築物5階には、「空の杜」を整備した(写真8.9-11)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>木の縦格子には国産のスギの規格材を採用する計画としている。設置箇所は軒裏などの雨がかりの少ない部分とし、さらに加圧注入処理(K3仕様)とし、耐久性を高め美観を維持する計画としている。</li> </ul>	<p>軒裏などの雨がかりの少ない部分の木の縦格子には、加圧注入処理(K3仕様)を施した国産のスギの規格材を採用した(写真8.9-12)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>外周に壁がないことで、日本の気候風土を活かした風通しの良い空間を創出する計画としている。彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出する計画としている。</li> </ul>	<p>外周には壁を設けず、彫の深い軒下は、「木漏れ日」のような陰と緑を望める縁側状の空間を創出した(写真8.9-13)。</p>
<ul style="list-style-type: none"> <li>植栽樹種は、計画地の潜在自然植生や代償植生の構成種を中心に選択するとともに、既存樹木の保存、移植利用を積極的に行い、周辺のみどりの景観との調和を図った植栽計画としている。</li> </ul>	<p>計画地北側のマテバシイ、計画地南側のヒマラヤスギ、ケヤキ、スダジイ等の既存樹木の保存、移植利用を行った(写真8.9-14～写真8.9-16)。また、新植した樹種は、潜在自然植生(スダジイ、ヤブコウジ群集)の構成種であるアラカシ、スダジイ、ヒサカキ等を用いた(写真8.9-17)。</p>



写真 8.9-1 外観



写真 8.9-2 最外周柱の最上部



写真 8.9-3 連続した軒庇



写真 8.9-4 軒庇の連続した縦格子



写真 8.9-5 外周の低層部の軒庇と鉛直柱



写真 8.9-6 軒庇上部のプランター

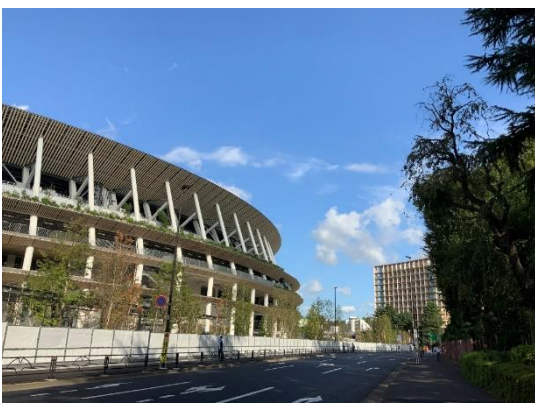


写真 8.9-7 計画地東・北側の階層構造緑化



写真 8.9-8 外構部緑化（大樹の里庭）





写真 8.9-9 外構部緑化（水辺の里庭）



写真 8.9-10 せせらぎ



写真 8.9-11 外構部緑化（空の柱）



写真 8.9-12 加圧注入処理（K3仕様）を施した国産の杉の規格材

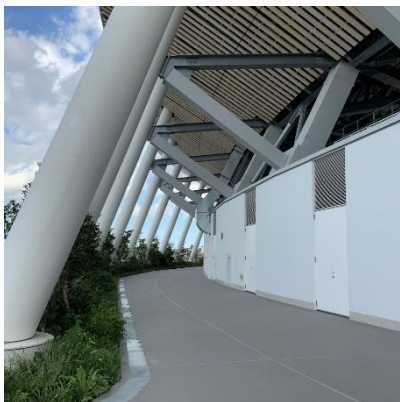


写真 8.9-13 軒下縁側状の空間



写真 8.9-14 計画地南側の移植樹木（スダジイ）



写真 8.9-15 計画地南側の保存樹木（ヒマラヤスギ）



写真 8.9-16 計画地南側の保存樹木（ケヤキ等）



写真 8.9-17 新植樹木（アカガシ、シラカシ、スダジイ等）